

# 自然の中で みんなと遊ぼう



## リフレッシュ 春 キャンプ

### 事業報告書

- 第1クール 3月23日(土)～26日(火)
- 第2クール 3月25日(月)～28日(木)
- 第3クール 3月27日(水)～30日(土)



国立能登青少年交流の家



国立立山青少年自然の家



## 目次

・はじめに	p 1
・開催要項	p 3
・応募状況(データ・地域・学年別)	p 4
・参加者	p 6
・写真で紹介するプログラムの流れ	p 7
・アンケート分析とトピックになるアンケートの自由記述	p 11
・リフレッシュ デイ キャンプ等の実績	p 15
・担当した企画指導専門職の感想	p 17
・編集者あとがき	p 18
・謝辞	p 19
・(参考)ボランティア伊藤夕妃さんの志望動機	p 20
・(参考)メディア・主要記事の掲載(抜粋)	p 22

## はじめに

### 【2011年、夏のリフレッシュキャンプ】

13年前、3月11日に東日本大震災が発生しました。その後、福島県において原子力発電所から放射能が漏れ、多くの方が避難されるなどの状況のなかで、当機構は文部科学省とともに福島県にある那須甲子青少年自然の家、磐梯青少年交流の家の2施設で県内の小学生、中学生を対象にリフレッシュキャンプを夏季休暇全期間で3泊4日を18クール実施し、延べ3,823名の子ども達が参加しました。その後も岩手山青少年交流の家、花山青少年自然の家においても沿岸地域の子どもの達を対象にリフレッシュキャンプに取り組みました。このキャンプの中で私たちが学んだことは、災害を受けた子ども達に必要なことは日常から離れ、非日常のなかで何よりも「子どもらしい時間を取り戻してあげる」ことでした。いつものように思いっきり遊んで、笑って、時にはけんかしたり、仲直りしたりすること、そして、学生ボランティアとともに自然のなかで思いっきり駆け回ることでした。その時間こそが子どもたちの「生きる力」を取り戻すことができることを参加した子ども達から学びました。

### 【2024年、1月21日「えがおプロジェクト」をスタート】

今回の能登半島地震で当所は発生直後より、避難所を開設。その後、一般受入れを停止させ、被災された方々、復興関係者を最優先に受入れを行いました。そして、断水で日常生活に影響を受けた住民の方々への浴室開放なども含めて多様な支援に取り組んできました。その中で当所はこのような支援を行いながら、当施設の重要な役割である体験活動を通じて子ども達を、リフレッシュする活動の機会を探ってきました。能登での被災状況や交通路の大きな損害から、まずは被災地へのアウトリーチしていく手法を考えました。しかし、町村との連携が進まず、なかなか現状が厳しく前へ進みませんでした。そこで、発想を転換し、当所としてまずは目の前にいる浴室開放に来所する子どもたちへのアプローチから始めることにしました。「えがおプロジェクト」と名付け、私達は浴室前の「講堂」「廊下」に体験活動や遊びのコーナーを設置し、施設で可能な範囲の小さなステップから体験活動をスタートさせました。

### 【リフレッシュデイキャンプからリフレッシュ春キャンプへ】

この取り組みの中で、子ども達が体験や遊びに熱中する姿、そして「楽しかった」という感想を拾うことができました。これを自信に、私達は2月から日帰りの「リフレッシュデイキャンプ」にチャレンジをしました。この時も、まずは小さなステップを大切に、浴室開放の来所が多い七尾市と志賀町を対象に、日帰りで4回のデイキャンプを行いました。その後、その実績をもとに穴水町、能登町、輪島市、珠洲市と徐々に奥能登地区へ範囲を広げ、合計7回のキャンプを行い、延べ163名の子ども達が参加しました。この7回のキャンプの実施の中で、能登地区の各町村教委との連携を構築し、各地域のニーズと学校の状況や広報ルートをつかむことができたことは大きな成果でした。この体制が能登地区全域を対象にした「リフレッシュ春キャンプ」の実施を支えました。まさに、施設という「点」を一つ一つの町村と「線」で結び、能登地区全域という「面」に広げることにつながれたと考えています。

### 【このキャンプで大切にしたい3つのこと】

能登の子どもたちにとって、この春休みはひとつの大切なタームであると思われました。4月から始まる新入学、新学期の中で新しい人間関係を乗り越えていくことのできる力が必要だからです。そのために、この春休みのキャンプでのきっかけづくりこそがポイントになり、その支援こそ、私達施設の重要な役割であると考えました。そこで、春休みに3泊4日を3クール、各50名のキャンプを実施することに

し、導入として能登青少年交流の家に集合 1 泊し、翌日からの 2 泊を立山青少年自然の家でプログラムを展開することにしました。能登と全く違い、残雪がある中でまだまだ雪遊びができる立山の環境は、リフレッシュに打ってつけだからです。私たちはプログラムを組むにあたり、一番大切にしたいことは、2011 年のリフレッシュキャンプでの経験はもちろんですが、当所での全 7 回のリフレッシュデイキャンプでの経験と学びを大切にしたいということです。特に、はじめは気の合った友達との参加がリフレッシュを促進すると想定していましたが、見事に裏切られ、新たな友達との出会いが子どもたちの元気と勇気につながっていったのです。そして、プログラムだけでなく、仲間との食事、入浴、洗濯といった生活プログラムに強くリフレッシュを感じていたのです。さらに、参加した子ども達に何かをさせるのではなく、ゆったりとした時間の中で、活動メニューの中から選択できるように設定し、子ども達の「やりたい！」という主体的な気持ちを尊重することが大切だということをつけ加えました。

### 【気仙沼出身のボランティアたち】

今回のキャンプにおいては、学生ボランティアの存在は欠かせないものでした。主に能登、立山を中心にした法人ボランティアが活躍をしましたが、今回、特に宮城県にある一般社団法人まるオフィスの協力を得て、小学生時代に東日本大震災で被災経験を持つ気仙沼市出身の学生ボランティア 7 名が参加をしました。彼女たちは志望動機の中でこのように書いています。「震災の記憶が悲しいものばかりでないのは、復興支援を通して出会った大学生の存在」であると、そして「私達のできることは子ども時代の『楽しい思い出』を増やしてあげることです。」とリフレッシュキャンプの必要性と方向性を明確に示してくれ、スタッフ全員で共有してキャンプに臨むことができたことは非常に重要であったと思います。

### 【本部、全施設とともに】

ボランティアばかりでなく、今回の「えがおプロジェクト」「リフレッシュ春キャンプ」など被災地支援活動を支えてくれたのが本部、全国各施設から当所に駆けつけてくれた応援職員の存在です。職員の半数以上が被災者である職場で支援を継続することの負担は非常に大きいものでありました。しかし、本部から、2 月から 1 週間ローテーションで計 40 名を超える職員が駆けつけ、主体的に支援活動に取り組んでくれました。リフレッシュキャンプのみならず、業務全体を支えてくれた応援職員。ここに当機構の持つ「つよみ」を強く感じました。この場を借りて、本部、全施設に心から御礼申し上げます。

### 【未来を支えるつながりづくりに取り組むことこそ】

最後に、先程の気仙沼市出身のボランティア達の数名は、13 年前に国立花山青少年自然の家の主催したリフレッシュキャンプ「はなまるキャンプ」の参加者でもありました。その経験から、能登半島地震後に「いてもたってもいられない」気持ちにあり、あの時の「思い出」に「恩返ししたかった」と話します。そして「今でもあのキャンプのことは忘れない。支えてくれた職員さんやボランティアさんたちのこと、キャンプネームを今でも言える」と話します。ここに未来があると私は考えています。まさに、今後起こりえる震災の中で、子ども達に寄り添う若者の、世代を越えたつながりづくりこそが、未来を支えていく。このキャンプの持つ、もう一つの大切な重要性が今回の「リフレッシュ春キャンプ」を終えて学ぶことのできた大切な教訓であると思います。今後も能登の被災地支援は継続させていきます。そして「えがおプロジェクト」「リフレッシュキャンプ」もさらに続けていきます。今回支えていただいた多くの方々とともに、さらに能登の未来に向けて歩んでいきたいと思っております。何卒よろしく願いいたします。

令和 6 年 4 月 22 日

国立能登青少年交流の家 所長 北見 靖直



- ◆趣 旨
  - ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
  - ・進級・進学を控え、不安を抱える児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで、仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気づき、明るく希望を持って新年度の生活をスタートできるようにする。
- ◆主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立能登青少年交流の家
- ◆後 援 文部科学省 石川県教育委員会
- ◆期 日 令和6年①3月23日(土)～26日(火)②3月25日(月)～28日(木)③3月27日(水)～30日(土)のいずれか3泊4日
- ◆場 所 国立能登青少年交流の家 国立立山青少年交流の家
- ◆募 集 人 数 能登地区(宝達志水町以北)の小・中学生 各回50名 ※応募多数の場合は抽選になります
- ◆日 程

1日目 in 能登			2日目 能登⇒in 立山		
8:30	能都中学校	Aバス発(能都中学校→到着)	6:00	宿舎	起床、清掃
9:00	輪島ふらっと訪夢	Bバス発(輪島ふらっと訪夢→JAのと穴水支店→到着)	7:00	講堂	朝のつどい
11:00	講堂	バス着・受付(能登青少年交流の家) NOTO オープニング・OR	7:20	食堂	朝食
12:00	食堂	昼食	8:40	宿舎	宿舎確認
13:00	講堂	仲間づくり (NOTO ジョイフレンド)	9:00		バス発(能登青少年交流の家)
15:00	ふれあいの広場	野外炊事	11:00	玄関ロビー	バス着(立山青少年自然の家) TATEYAMA オープニング・OR
20:00	浴室	入浴	12:00	食堂	昼食
21:00	宿舎	就寝準備	13:00	活動別	この指止まれ! タイム
21:30		就寝	17:30	食堂	夕食
			18:30	活動別	わくわくナイト
			20:00	浴室	入浴
			21:00	宿舎	就寝準備
			21:30		就寝
3日目 in 立山			4日目 立山⇒in 能登		
6:00	宿舎	起床、清掃	6:00	宿舎	起床、清掃
7:00	プレイホール	朝のつどい	7:00	プレイホール	朝のつどい
7:30	食堂	朝食	7:30	食堂	朝食
8:30	プレイホール	活動準備・説明	9:00	宿舎	宿舎確認
9:00	活動別	ピザづくり	9:30	玄関ロビー	バス発(立山～能登)
13:30	プレイホール	活動準備・説明	11:30	能登青少年	バス着
14:00	活動別	わくわくチャレンジ	11:45	ランドリー	洗濯
17:30	食堂	夕食	12:00	食堂	昼食
18:30	活動別	みんなで焚火を囲み、 星空を見上げよう!	13:00	ランドリー	洗濯物乾燥
19:30	浴室	入浴	13:30	講堂	振り返り、洗濯物取り込み
21:00	宿舎	就寝準備	14:00	浴室	入浴
21:30		就寝	15:00	玄関前	Aバス発(→JAのと穴水支店→輪島ふらっと訪夢) Bバス発(→能都中学校)
			18:00	輪島ふらっと訪夢	Aバス着
			18:30	能登立能都中学校	Bバス着

※天候、道路の状況によっては、活動や時間が変更になる場合があります。

- ◆参 加 費 無料  
内訳：食事代、野外炊事代、飲み物代、活動費、施設使用料、シーツ等洗濯代、保険料等
- ◆服 装 ・ 持 ち 物 (※3泊4日分)
  - 帽子 タオル2～3枚 軍手 活動着=長袖、長ズボン 防寒着 着替え パジャマ等の部屋着
  - 履きなれた運動靴 内履き 長靴 雨具 お風呂セット (バスタオル、お風呂用タオル)
  - 常備薬 ポケットティッシュ ハンカチ
- ◆申込方法・受付期間
  - (1) 申込方法：当施設ホームページ掲載の「申込フォーム」より申込  
申込フォーム URL⇒<https://forms.office.com/r/JsKZnuz4J2?origin=lprLink>
  - (2) 受付期間：令和6年3月8日(金)～3月14日(木)
- ◆問 合 せ 先 国立能登青少年交流の家 担当 田中・恩田・酒井・小泉  
〒925-8530 石川県羽咋市柴垣町14-5-6  
TEL 0767-22-3121/FAX 0767-22-3125 E-mail [noto@niye.go.jp](mailto:noto@niye.go.jp)



奥能登地区

輪島市

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
河井小学校	3			3				0		1		1	4
鳳至小学校				0		4		4				0	4
鴻巣小学校				0				0				0	0
大屋小学校	2			2	1	2		3	1			1	0
三井小学校				0				0				0	0
河原田小学校				0				0				0	0
町野小学校				0				0		2		2	2
門前東小学校				0				0	1	3		4	4
門前西小学校				0	1			1	1	4	1	6	7
東陽中学校				0				0	1			1	1
門前中学校				0				0				0	0
輪島中学校				0				0				0	0
その他(金沢避難)	1			1									1
合計	6	0	0	6	2	6	0	8	4	10	1	15	29
%	100.0	0.0	0.0	20.7	25.0	75.0	0.0	27.6	26.7	66.7	6.7	51.7	100

珠洲市

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
上戸小学校				0	4	3		7				0	7
飯田小学校				0				0		2		2	2
直小学校	1	2		3	1			1	1		1	2	6
若山小学校				0				0				0	0
正院小学校				0				0				0	0
蛸島小学校				0				0				0	0
みさき小学校				0				0				0	0
宝立小中学校				0				0				0	0
大谷小中学校				0				0				0	0
緑丘中学校				0				0				0	0
三崎中学校				0				0				0	0
合計	1	2	0	3	5	3	0	8	1	2	1	4	15
%	33.3	66.7	0.0	20.0	62.5	37.5	0.0	53.3	25.0	50.0	25.0	26.7	100

能登町

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
柳田小学校				0				0			1	1	1
宇出津小学校				0	1	1		2				0	2
鶴川小学校				0				0				0	0
小木小学校	1		2	3				0				0	3
松波小学校		1		1	1	7		8	2	5		7	16
能都中学校				0				0				0	0
小木中学校				0				0				0	0
松波中学校				0				0				0	0
合計	1	1	2	4	2	8	0	10	2	5	1	8	22
%	25.0	25.0	50.0	18.2	20.0	80.0	0.0	45.5	25.0	62.5	12.5	36.4	100

穴水町

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
穴水小学校	2		3	5	1			1	1	1	1	3	9
向洋小学校	1		1	2	2			2	3	11	1	15	19
穴水中学校				0				0				0	0
合計	3	0	4	7	3	0	0	3	4	12	2	18	28
%	42.9	0.0	57.1	25.0	100.0	0.0	0.0	10.7	22.2	66.7	11.1	64.3	100.0

奥能登低中高合計	11	3	6	20	12	17	0	29	10	29	5	44
奥能登中学生合計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
奥能登地区 合計	11	3	6	20	12	17	0	29	11	29	5	45

中能登地区

七尾市

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
小丸山小学校	1			1	3	4	1	8	6	4	6	16	25
山王小学校	2	3		5	1	4	2	7		3	2	5	17
天神山小学校	1			1	1	1	2	4	1		1	2	7
東湊小学校	1	2		3				0			1	1	4
石崎小学校				0				0				0	0
和倉小学校	1	1		2				0				0	2
田鶴浜小学校				0		3		3				0	3
中島小学校				0				0				0	0
能登島小学校				0				0		1	2	3	3
朝日小学校		1		1				0	1	5	1	7	8
七尾東部中学校	3			3				0				0	3
能登香島中学校				0				0				0	0
中島中学校				0				0				0	0
七尾中学校			1	1				0				0	1
合計	9	7	0	17	5	12	5	22	8	13	13	34	73
%	52.9	41.2	0.0	23.3	22.7	54.5	22.7	30.1	23.5	38.2	38.2	46.6	100.0

志賀町

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
志賀小学校	4	6	1	11	8	8	1	17		8		8	36
富来小学校			2	2				0		1		1	3
志賀中学校				0				0	3			3	3
富来中学校				0				0				0	0
合計	4	6	3	13	8	8	1	17	3	9	0	12	42
%	30.8	46.2	23.1	31.0	47.1	47.1	5.9	40.5	25.0	75.0	0.0	28.6	100.0

中能登町

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
鹿島小学校				0		1	2	3		5		5	8
鳥屋小学校	1	2	4	7	1	2		3		4	3	7	17
鹿西小学校	1			1	1	3	7	11		1		1	13
中能登中学校			2	2		3		3				0	5
合計	2	2	6	10	2	9	9	20	0	10	3	13	43
%	20.0	20.0	60.0	23.3	10.0	45.0	45.0	46.5	0.0	76.9	23.1	30.2	100.0

羽咋市

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
羽咋小学校		1		1		1		1	1	1	2	4	6
粟ノ保小学校				0	1			1				0	1
瑞穂小学校				0		1		1				0	1
西北台小学校				0				0				0	0
邑知小学校				0				0				0	0
羽咋中学校				0				0				0	0
邑知中学校				0				0				0	0
合計	0	1	0	1	1	2	0	3	1	1	2	4	8
%	0.0	100.0	0.0	12.5	33.3	66.7	0.0	37.5	25.0	25.0	50.0	50.0	100.0

宝達志水町

	0323(土)~0326(火)				0325(月)~0328(木)				0327(水)~0330(土)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
押水第一小学校				0				0				0	0
宝達小学校				0				0				0	0
相見小学校				0				0				0	0
志雄小学校				0	1	1	3	5	2	1		3	8
樋川小学校				0				0	1			1	1
宝達中学校				0				0				0	0
合計	0	0	0	0	1	1	3	5	3	1	0	4	9
%	#####	#####	#####	0.0	20.0	20.0	60.0	55.6	75.0	25.0	0.0	44.4	100.0

中能登低中高合計	12	16	7	35	17	29	18	64	12	34	18	64
中能登中学生合計	3	0	3	6	0	3	0	3	3	0	0	3
中能登地区 合計	15	16	10	41	17	32	18	67	15	34	18	67



## 5. 参加者

参加者は、申込後のキャンセルを除き、第1クールが51名、第2、第3クールがそれぞれ48名であった。

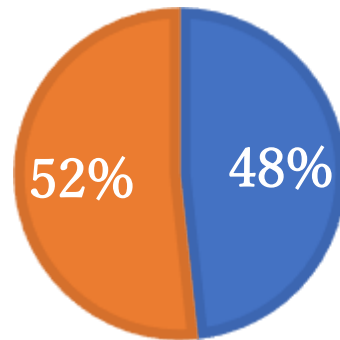
右の円グラフ①から読み取れるように、奥能登・中能登両地区からほぼ同数の参加者であった。

次に、参加者における男女の割合を見してみる。下のグラフ②～④から、クールごとの男女の偏りはあるものの、結果としてグラフ⑤が示すように、全クールを通した男女の割合はほぼ同数であった。

要因としては、企画指導専門職が、市町教委担当者や奥能登・中能登教育事務所へ事業の趣旨を説明したり、奥能登・中能登地区の児童生徒を対象にリフレッシュ事業を展開したりしていたため、事業の周知・広報が効果的に進んだと考えられる。

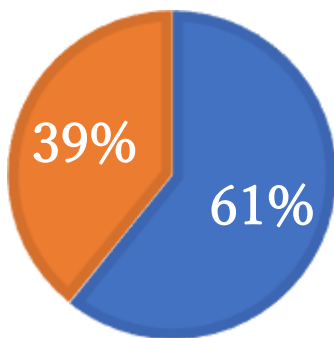
① キャンプ参加者 地区別割合

■ 奥能登参加 ■ 中能登参加



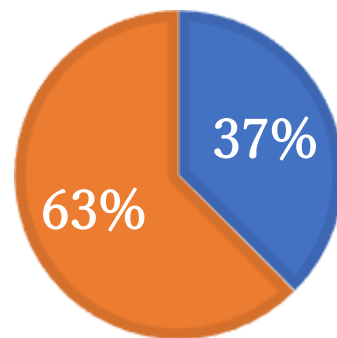
② 第1クール

■ 男子割合 ■ 女子割合



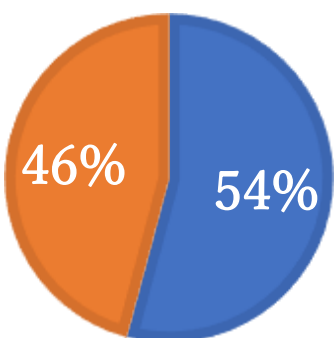
③ 第2クール

■ 男子割合 ■ 女子割合



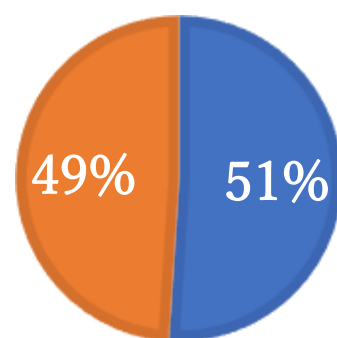
④ 第3クール

■ 男子割合 ■ 女子割合



⑤ 全クールを通した男女内訳

■ 男子内訳 ■ 女子内訳



6-1. 写真で紹介するプログラムの流れ

1日目 in 能登		
8:30	能都中学校	Aバス発(能都中学校→到着)
9:00	輪島ふらっと訪夢	Bバス発(輪島ふらっと訪夢→ JAのと穴水支店→到着)
11:00	講堂	バス着・受付(能登青少年交流の家) NOTO オープニング・OR
12:00	食堂	昼食
13:00	講堂	仲間づくり (NOTO ジョイフレンド)
15:00	ふれあいの広場	野外炊事
20:00	浴室	入浴
21:00	宿舎	就寝準備
21:30		就寝

NOTO オープニング・OR



仲間づくり(NOTO ジョイフレンド)



野外炊事(ガパオライス)



## 6-2. 写真で紹介するプログラムの流れ

2日目		能登⇒in立山
6:00	宿舎	起床、清掃
7:00	講堂	朝のつどい
7:20	食堂	朝食
8:40	宿舎	宿舎確認
9:00		バス発(能登青少年交流の家)
11:00	玄関ロビー	バス着(立山青少年自然の家) TATEYAMA オープニング・OR
12:00	食堂	昼食
13:00	活動別	<u>この指止まれ!タイム</u>
17:30	食堂	夕食
18:30	活動別	<u>わくわくナイト</u>
20:00	浴室	入浴
21:00	宿舎	就寝準備
21:30		就寝

### 朝のつどい



### この指止まれ!タイム



### わくわくナイト



6-3. 写真で紹介するプログラムの流れ

3日目 in 立山		
6:00	宿舎	起床、清掃
7:00	プレイホール	朝のつどい
7:30	食堂	朝食
8:30	プレイホール	活動準備・説明
9:00	活動別	<u>ピザづくり</u>
13:30	プレイホール	活動準備・説明
14:00	活動別	<u>わくわくチャレンジ</u>
17:30	食堂	夕食
18:30	活動別	<u>みんなで焚火を囲み、 星空を見上げよう！</u>
19:30	浴室	入浴
21:00	宿舎	就寝準備
21:30		就寝

野外炊事(ピザづくり)



わくわくチャレンジ



みんなで焚火を囲み、星空を見上げよう！



## 6-4. 写真で紹介するプログラムの流れ

4日目 立山⇒in能登		
6:00	宿舎	起床、清掃
7:00	プレイホール	朝のつどい
7:30	食堂	朝食
9:00	宿舎	宿舎確認
9:30	玄関ロビー	バス発(立山～能登)
11:30	能登青少年	バス着
11:45	ランドリー	洗濯
12:00	食堂	昼食
13:00	ランドリー	洗濯物乾燥
13:30	講堂	振り返り、洗濯物取り込み
14:00	浴室	入浴
15:00	玄関前	Aバス発(→道の駅水谷～輪島ふるさと館) Bバス発(→能都中学校)
18:00	輪島ふるさと館	Aバス着
18:30	能登町立能都中学校	Bバス着

### 朝のつどい



### 思い出アート(写真立て・色紙)



### またねの会



## 7-1. アンケート分析

第1～3クールの参加者142名に事後アンケートを取り、回答してもらった（申込数と回答数が合わないのは、途中早退や直前のキャンセルによるものである）。

事業全体の満足度項目を1つ、体験活動を通しての満足度項目とねらいにせまる満足度項目をそれぞれ3つずつ設定して尋ねた。結果を以下に示す。

### ◆事業全体の満足度



「楽しかった」「やや楽しかった」（以下肯定的評価）の割合が100%であった。

詳細は以下の分析で述べるが、非日常的な時間を楽しみ、また、日常でありながらもこの震災で失われた活動のありがたさに触れたり、感謝したりする記述が数多く寄せられた。

本キャンプに対する満足度は非常に高いものがあつた。

### ◆体験活動を通しての満足度



発災直後から、当施設がまず取り組んだりフレッシュ事業が、入浴一般開放である。断水、節水、取水制限等今なお日常を取り戻せない参加者が本キャンプでも何人いた。整理券等なく、入浴時間を気にせずに、のんびりとお風呂に浸かったりする姿が多く見られた。また、入浴後の余暇活動を自分で選んで過ごす時間は、失われた日常そのものだったと言える。



本キャンプは、「班のみんなで相談する・作戦を立てる・役割分担する・決める」ということを軸に活動を展開した。最初は緊張した面持ちの子も、活動が進むにつれ、発話が増え、表情が和らぎ、班の子と協力することができるようになった。この結果から、ガパオライスやピザといった共通のものを作るために、チームワークが大事ということを実感していることがうかがえる。



場所を能登から立山へ移し、2・3・4日目を過ごした。「この指止まれ！タイム」をはじめ、活動を自由に選択できたため、おのずと自己決定の場面が多く生まれた。さらに、それが自己選択・自己決定した仲間とのつながりを生み、班や学年男女の垣根を超えて遊ぶ姿となって表れていた。

### ◆ねらいにせまる満足度

本キャンプのねらい「心身のリフレッシュ」「仲間づくり」「自分の良さ」に関する回答である。

「心身ともにリフレッシュ」では、遊びや食事、入浴等といった日常体験や、野外炊飯、自然体験活動、つどい等といった非日常体験が交互に繰り広げられる展開だったため、適度に休息を取りながら、活動に参加できたためではないかと考えられる。

「仲間づくり」では、主務者が活動前に仲間づくりの趣旨を伝えたり、スタッフが仲間を大事にした良い姿を褒めたりした。また、活動後には必ず振り返りを行い、主担当者や班付スタッフがフィードバックを行ったことも、仲間づくりの良さを認める高い肯定的回答につながっているとと言える。

「自分の良さ」では、積極的肯定的回答が43%、肯定的回答が39%と全体の82%を占めた。これは、今年度の全国学力学習状況調査における質問紙項目とほぼ同一水準である。ただ、質問紙調査がそれまでの経験を基にした回答なのに対し、本回答は体験活動を基にした回答であることから、その信頼性は高い。

中学生の肯定的回答の割合は、64.4%であった。数値は、小学生と比較して低いが、詳細は特筆すべき自由記述で後述する。



## 7-2. 自由記述(抜粋)

### 1クール

- ・ 自分の良さの意味がよく分かった。 (2年男子)
- ・ お家の人のご飯を作ったり、洗たくをしたりするのが大変だということが分かった。 (2年女子)
- ・ キャンプは初だったけど、意外と楽しかったし、今度のキャンプに参加してみたい。 (4年女子)
- ・ 学校では 人間関係に悩まされていたけど、キャンプではみんな優しく接してくれたから、精神のリフレッシュになった。 (5年男子)
- ・ ちがう学校で出会ったことのない人たちと最後は仲良くできて、リフレッシュ春キャンプに参加してよかった。 (5年女子)
- ・ 非日常的なことをすると、リフレッシュできたり、楽しんだりすることができると分かった。 (5年女子)
- ・ 自分だけのことを考えるんじゃなく、人のために動くことが大事だと改めて分かった。掃除等 自分が汚していなくても次に使う人のことを考えて動けた。 (中学男子)
- ・ いつもと違う体験ができ、非日常的でとても楽しい3泊4日を仲間と過ごすことができた。 (中学女子)
- ・ 自分の良いところや仲間の良いところが分かった。 (中学女子)
- ・ みんなで協力すると、短い時間で作業を終えることができると分かったし、みんなをまとめるのは大変だと分かった。 (中学女子)

### 2クール

- ・ ぼくは知らない人と会うときんちょうするのに、なぜか今回だけはきんちょうしなかった。 (3年男子)
- ・ いつもは地しんがこわくて夜眠れなかったけど、キャンプでは心配しないで眠れた。 (3年女子)
- ・ 「絵が上手！」ってほめてくれたり、「話がおもしろい！」ってほめてくれたりして、自分の良さが分かったし、みんなやさしくておもしろい人だったから、みんなと友達になれたのかもしれない。 (3年女子)
- ・ 初めは知っている人が1人しかいなかったけど、活動をしていくごとに楽しくなって良かったなと思った。 (4年男子)
- ・ テレビを見なくても、友達がいれば大丈夫だと分かった。 (4年女子)
- ・ 友達と協力するのは難しい時もあるけど、とても楽しいと思った。 (4年女子)
- ・ 4月から6年生になって 全校をまとめる時に、このキャンプのことを活かしたい。 (5年女子)



- ・新しい友達がたくさん増えて、協力できてうれしかったです。(5年女子)
- ・自分がいろいろな意見を言えていると知り、みんなでやった方が楽しいということを知った。(5年女子)
- ・いろんな人と話をすると、コミュニケーション力が高められて、すごくよかつたし、嫌なことを忘れることができた。(中学女子)
- ・自然の家の人たちのような仕事をしてみたいと思った。(中学女子)

### 3クール

- ・じしんがおきるまえは、ともだちのいえへ行っていたけど、じしんがおきてからはともだちのいえへ行っていなかった。このキャンプに来て、あらためてともだちができるのはいいことなんだなとおもいました。(1年男子)
- ・リフレッシュキャンプは楽しかった。わけは、こまったときに、リーダーが助けてくれたし、友達もやさしくしてくれてうれしかったからです。(3年男子)
- ・ねる時におふとんがフワフワで気持ちよくて、一日のつかれがよくとれた。(3年男子)
- ・水や電気の大切さを知れた。(3年女子)
- ・いつもはお手伝いをしないけど、こんなに大変だと知り、これからはお手伝いをいっぱいしたいと思った。(4年女子)
- ・協力するということが大切だと、特に、ガパオライスやピザを作るときにそう思った。(4年女子)
- ・友達を作ると楽しいことが増えるから、友達は大切だなと感じた。(4年女子)
- ・名前も顔も知らない人でも協力したら仲良くなれるし、1人よりも心強いことが分かった。(6年女子)
- ・完全初対面でも、4日間でこんなに仲良くなれるのに少し驚いた。(6年女子)
- ・雪遊びや炎を囲んで遊ぶと、自然を感じることができて、普段はなかなかできない体験ができた。(6年女子)
- ・他の人(新しい人)と「はじめまして」の交流ができて、安心感がとても大きくなった。(中学女子)
- ・知らない子と、学年もバラバラなのに、一緒に料理やレクリエーションをするのがとても楽しかった。このような機会があればまたやりたい。(中学女子)

以上、アンケート分析と自由記述から、事業全体、特に体験活動を通じた満足度が高いことが分かる。また、自由記述から、どのクールにおいても、3つのねらいに迫ったことが読み取れる。数値による自己評価が低めの中学生は、自由記述で豊かに自分自身を振り返っており、これからの自分の在り方についても思いを巡らせている。今後は自分の良さを見つけるプログラムの展開を工夫していく。

8. 参考資料

令和5年度 リフレッシュデイキャンプ アンケート結果

全体	リフレッシュ・デイ・キャンプは楽しかったですか。				体験活動を通してリフレッシュできましたか。(食事タイム)				体験活動を通してリフレッシュできましたか。(お風呂タイム)				体験活動を通してリフレッシュできましたか。(遊びタイム)				参加人数	男子	女子
	楽しかった	やや楽しかった	あまり楽しなかった	楽しなかった	できた	ややできた	あまりできなかった	できなかった	できた	ややできた	あまりできなかった	できなかった	できた	ややできた	あまりできなかった	できなかった			
0203(土)	26	2	0	0	25	2	1	0	25	2	1	0	27	1	0	0	28	17	11
0204(日)	12	2	0	0	11	3	0	0	11	3	0	0	13	1	0	0	14	7	7
0210(土)	22	1	0	1	22	2	0	0	18	4	0	2	19	5	0	0	24	11	13
0211(日)	24	1	0	0	24	1	0	0	21	4	0	0	24	1	0	0	25	14	11
0217(土)	10	0	0	0	9	1	0	0	8	2	0	0	9	1	0	0	10	7	3
0218(日)	13	4	1	0	14	2	2	0	13	2	1	2	13	4	1	0	18	6	12
0223(金)	15	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0	15	6	9
0302(土)~03(日)	25	1	1	0	26	0	1	0	22	4	1	0	25	1	1	0	27	12	15
合計	147	11	2	1	146	11	4	0	133	21	3	4	145	14	2	0	161	80	81
全体に占める割合(%)	91.3	6.8	1.2	0.6	90.7	6.8	2.5	0.0	82.6	13.0	1.9	2.5	90.1	8.7	1.2	0.0			
肯定的回答割合(%)	<b>98.1</b>				<b>97.5</b>				<b>95.7</b>				<b>98.8</b>						

第1~4弾(七尾市・志賀町)

七尾市	0203(土)				0204(日)				0210(土)				0211(日)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
小丸山小学校	3	1	1	5	1	1		2	1	1	0	2	1	2	1	4	13
山王小学校	1	2	2	5				0	1	5	4	10		2		2	17
天神山小学校	1	1		2			3	3				0				0	5
東湊小学校		1		1				0				0				0	1
石崎小学校				0				0				0				0	0
和倉小学校				0				0	1	1	0	2	1	1		2	4
田鶴浜小学校				0			2	2				0				0	2
中島小学校				0				0				0				0	0
能登島小学校				0				0				0				0	0
朝日小学校	1	1	1	3				0				0		1	2	3	6
七尾東部中学校				0				0				0				0	0
能登香島中学校				0				0				0				0	0
中島中学校				0				0				0				0	0
七尾中学校				0				0				0				0	0
合計	6	6	4	16	1	1	5	7	3	7	4	14	2	6	3	11	48
%	21.4	21.4	14.3	57.1	2.1	2.1	10.4	14.6	6.3	14.6	8.3	29.2	4.2	12.5	6.3	22.9	

志賀町	0203(土)				0204(日)				0210(土)				0211(日)				参加人数
	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	低	中	高	合計	
志賀小学校	5	7		12	2	2	2	6	4	5	1	10	4	9	1	14	42
富来小学校				0				0				0				0	0
志賀中学校				0	1			1				0				0	1
富来中学校				0				0				0				0	0
合計	5	7	0	12	3	2	2	7	4	5	1	10	4	9	1	14	42
%	17.9	16.7	0.0	28.6	7.1	4.8	4.8	16.7	9.5	11.9	2.4	23.8	9.5	21.4	2.4	33.3	

### 第5弾(穴水町)

穴水町	0217(土)				0218(日)			
	低	中	高	合計	低	中	高	合計
穴水小学校	1	2	3	6	1	1	0	2
向洋小学校	1	1	0	2	0	0	0	0
合計	2	3	3	8	1	1	0	2
%	20.0	30.0	30.0	80.0	10.0	10.0	0.0	20.0

参加人数  
8  
2  
10

### 第6弾(追加募集:七尾市・志賀町)

七尾市	0217(土)				0218(日)			
	低	中	高	合計	低	中	高	合計
小丸山小学校	0	0	0	0	1	0	3	4
合計	0	0	0	0	1	0	3	4
%	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	6.3	8.3

参加人数  
4  
4

志賀町	0217(土)				0218(日)			
	低	中	高	合計	低	中	高	合計
志賀小学校	2	0	0	2	2	1	0	3
志賀中学校	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	2	0	0	2	2	1	0	3
%	7.1	0.0	0.0	4.8	4.8	2.4	0.0	7.1

参加人数  
5  
1  
5

### 第7弾(中能登町)

中能登町	0223(土)			
	低	中	高	合計
鹿西小学校	0	3	0	3
鳥屋小学校	4	5	2	11
鹿島小学校	1	0	0	1
合計	5	8	2	15
%	17.9	19.0	4.8	35.7

参加人数  
3  
11  
1

### 第8弾(輪島市・珠洲市・能登町)

珠洲市 能登町	0302(土)~0303(日)				
	低	中	高	中学生	合計
珠洲市立直小	7	4	2		13
珠洲市立みさき小		1	1		2
能登町立小木小			1		1
能登町立柳田小			3		3
能登町立宇出津小		2			2
能登町立松波小	1	2			3
輪島市立輪島中				2	2
輪島市立河井小		1			1
合計	8	10	7	2	27
%	28.6	23.8	16.7	4.8	64.3

参加人数  
13  
2  
1  
3  
2  
3  
2  
1



# 石川県

## 9. 担当した企画指導専門職より

第1クール 3月23日（土）～26日（火）担当  
酒井 伸大 企画指導専門職

第1クールは、日を追うごとに、「仲間」を大事にする関わりが増えてきました。止むを得ずキャンプを終える子をアーチで見送ったり、一緒に手をつないだり、迎えに行ったり……。大人の私がハッとさせられる場面がいくつもありました。小さい子に囲まれて、高学年や中学生の嬉しそうな笑顔が印象的でした。友達いっぱい、仲間がいっぱい。みなさんの、4月からのはじめの一步を応援しています。



第2クール 3月25日（月）～28日（木）担当  
恩田 雅博 企画指導専門職

第2クールは、初めは静かで班の友達との会話が少なかったです。しかし、能登でのガパオライスづくり、立山での屋内活動やピザづくりなどの活動を進むにしたがって、みんなが楽しめるように役割分担を決めたり、仲間のために自分ができる仕事を精一杯に取り組んだりする姿が見られました。最後に「協力して何かを作ることが楽しかった」「たくさんの友達を増やすことができてよかった」という声を多く聞くことができて、私も嬉しい気持ちになりました。



第3クール 3月27日（水）～30日（土）担当  
小泉 滋 企画指導専門職

第3クールは最初緊張があったのか、静かな印象でした。しかし、1日目の野外炊事から子ども達は大きく変わり笑顔も増えたように感じました。2日目からはお互いに名前呼び合うようになり、上級生がボランティアリーダーのように声をかけてくれる姿もありました。最後の発表では、「たくさん友達ができて嬉しかった」という声がいっぱい聞かれたのが印象的でした。



## 10. 編集者あとがき

この3か月、「心身ともにリフレッシュ」「仲間っていいな」「自分の良さを見つけよう」の3つを柱に、「被災した子どもたちに笑顔になってほしい」その一心で取り組んできました。

子ども達の「したい」「やりたい」思いを大事にして企画したこのリフレッシュ春キャンプ。仲間と協力し合い、乗り越え、自分の良さを堂々と述べる姿、当たり前に来ていたことに感激し、感謝する姿に、胸がいっぱいになりました。

「ただいま」「おかえり」「ありがとう」「ごめんね」—。このキャンプでたくさん聞かれた、心通わせる魔法の言葉の数々。私たち大人がいつしか忘れてしまった大事なことを、子どもたちは、その姿で教えてくれました。そして、能登青少年交流の家、立山青少年自然の家で、まるで我が家のように過ごし、リフレッシュして過ごす姿に心から安心しました。

新しい学校、新しい学年、新しい学級、新しい先生—。4月からのはじめの一步を職員一同応援しています。そして今後も、被災された方々に寄り添いながら、私たち施設にできることを模索し、提案していきます。

編集後記



## 謝辞

本報告書の作成に当たり、ご助言いただきました、国立青少年教育振興機構及び国立立山青少年自然の家の職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

また、特に広報面で後援いただいた文部科学省ならびに石川県教育委員会の皆様、物心両面で協賛いただいた、(株)Coleman、(株)小学館、(株)タイガー魔法瓶、(一社)まるオフィスの皆様に厚く御礼申し上げます。

## リフレッシュデイ ボランティア志望動機

早稲田大学社会科学部 4年

伊藤夕妃

私は小学校3年生のとき、地元宮城県気仙沼市唐桑町で東日本大震災を経験した。そして震災後、たくさんの大学生ボランティアに出会い、遊んでもらった。今度は、今大学生である私とその役割を担いたい。これが、私がリフレッシュデイキャンプをはじめ、国立能登青少年交流の家でのボランティアを希望する理由だ。

震災後、気仙沼にたくさんの大学生が復興支援に来てくれた。放課後の学習支援や夏祭り、クリスマス会等の季節の行事を企画運営してくれた。そして、大学がない気仙沼で、私に「大学に行きたい」と思わせてくれて人は、大学生のときに東日本大震災の復興ボランティアに尽力し、現在気仙沼市の教育の発展のために活躍している。大学がない気仙沼で暮らす私にとって、大学生の存在は非常に大きく、少し歳の離れたかっこいいお兄さん、お姉さんだった。今度は私が、石川で被災した子どもたちのそのような存在になりたい。

具体的には、子どもたちに非日常を楽しんでもらうイベントのボランティアをしたいと考えている。リフレッシュデイキャンプボランティアはもちろんのこと、可能であるならばキャンプの企画の段階から運営まで携わりたい。もちろん、キャンプ以外のボランティアの機会があれば、進んで参加したい。

このボランティアの経験を通して私は、変化し続ける現場のニーズを把握しながら、行動できる力を身につけたい。そして、私は春から慶應義塾大学の大学院に進学する。大学院で学びつつ、可能であれば国立能登青少年交流の家に何度も足を運び、関わり続けたい。大学院では、今回のボランティア経験を活かして、地域の人たちと一緒にまちづくりを行う研究をし、将来的には災害に強いスマートシティづくりに貢献する仕事がしたいと考えている。

北見さんには、先日大変お忙しい中、時間を割いて打ち合わせをしていただいた。私自身、何者でもないただの大学生だが、ボランティアの機会をいただけるのであれば、しっかりとボランティアとしての行動をもって、恩返ししたい。

始めにも述べたが、私は小学生のときに東日本大震災を経験した。1ヶ月以上遅れて再開した小学校生活は、非常に過ごしにくかったと振り返って思う。小学校の校庭には、仮設住宅が建てられ、外で思いっきり遊ぶことができない。仮設住宅に住む人への配慮のため、大きな声で笑ってはいけない。学校では震災の話をしてはいけないなど、我慢を強いられる小学校生活だった。しかし、震災の記憶が悲しいものばかりではないのは、復興支援を通して出会った大学生の存在が大きかったのだ。今度は今大学生である私が、石川の子どもたちにとってそのような存在になりたいと思い、今回のボランティアを希望する。

### 以下、ボランティアとして活動できる期間（3月まで）

2月18日（日）～27日（火）

3月10日（日）～3月13日（水）

3月26日（火）～3月29日（金）

※4月以降のボランティアは、大学院の予定が決まり次第、連絡をする

## 大学でのボランティア活動

ウクライナ避難民ボランティアを経験（2022年9月17日～10月3日）

### 海外ボランティア体験記

ウクライナ避難民支援プロジェクト 伊藤 夕妃



小学3年生の頃、宮城県で東日本大震災を経験しました。その際、学生ボランティアの方に支援していただき、私もその方のように誰かの役に立ちたいと思ったことがきっかけで、早稲田大学へ入学しました。在学中にはThe Volunteer Program for Ukraine というプログラムに、2022年9月17日から10月3日の約2週間参加しました。このプログラムは、ウクライナ近隣国に日本の大学生を派遣し、避難民を支援するというものです。連日テレビでウクライナ侵攻に関するニュースが流れますが、実際に何が起きているのかを自分の目で確かめるため、また、震災の時に世界各地からいただいた支援の

恩返しのため、参加を決めました。

活動拠点は、オーストリアのウィーンとポーランドのプシェミスル、メディカという地域でした。炊き出しや、駅構内の案内、荷物運び、ゴミ拾い、子どもたちのお世話など現地の方と協力し、たくさんの支援活動を経験しました。避難民の方が話す言葉が理解できず、もどかしい日々を送りましたが、「ジャパン、アリガトウ」とたくさんの避難民の方が私の手を握ってくれたことは、この先一生忘れることはありません。日の丸を背負って活動する誇りと、大学生という何でもない自分でも目の前の人を笑顔にすることができると感じました。



▲ウクライナとポーランドの国境付近でゴミ拾い



▼避難所に寄付するために制作した折り紙



▲現地のボランティア仲間との記念撮影



◀参加した日本の大学生との記念撮影



## 掲載メディア・主要記事の掲載（抜粋）

### （1）テレビ局・WEB

#### ①日テレニュース NNN

【能登半島地震】被災の小中学生 デイキャンプで遊びや洗濯体験 石川・羽咋市



#### ②NHK 石川 NEWS WEB

## 被災地の小中学生に運動やゲームで体を動かしてもらおうイベント

02月04日 11時45分



能登半島地震で被災した地域の子  
どもたちにスポーツやゲームで体  
を動かしてリフレッシュしてもら  
おうというイベントが羽咋市で開  
かれています。

このイベントは、野外活動が行え  
る施設やスポーツ施設などを備え  
る羽咋市の国立能登青少年交流の

家が開いたもので、4日は今回の地震で被害を受けた七尾市や志賀町で暮らす小学生  
や中学生14人が参加しました。

参加した子どもたちは、ジャンプしたり手をつないで円になったりして遊ぶゲームを  
楽しんだほか、ドッジボールでは力強くボールを投げたり素早くよけたりして思い切  
り体を動かしていました。

今回の地震では、断水が長期化し、洗濯が難しい状況が続いているため、子どもたち  
は施設の洗濯機を使って洗濯も体験していました。

参加した子どもたちは「新しい友達ができ、ドッジボールをして楽しかった」とか  
「地震でずっと家にいたのでみんなと遊べて楽しい」と話していました。

主催した「国立能登青少年交流の家」の田中久年さんは「今回の能登半島地震で、大  
変苦労されている人が多いと思います。ちょっと羽を伸ばしてリフレッシュしてほし  
いと思います」と話していました。

このイベントは2月10日と11日にも開かれる予定です。

### ③NHK 石川 NEWS WEB

## 羽咋市で宿泊イベント “被災地の子どもにリフレッシュを”

03月03日 12時05分



能登半島地震で被災した地域の子どもたちに、思う存分体を動かしてリフレッシュしてもらおうと、石川県羽咋市で1泊2日のイベントが開かれています。

このイベントは、羽咋市にある「国立能登青少年交流の家」が、地震で被災した地域の子どもたち

向けに開催していて、2日と3日は輪島市と珠洲市、それに能登町の小中学生27人が参加しています。

2日は、子どもたちはまず、屋内の広いスペースでチームに分かれ、小さいおたまの上に卵を乗せて運ぶリレーなど体を動かすゲームをして、さっそくお互いの距離を縮めていました。

このあと食堂に移り、おかずなどをそれぞれ皿に取ったあと、班ごとに席に座って談笑しながら昼食を食べていました。

能登町の6年生の女の子は「地震のあとは揺れが怖くてあまり外に出ず引きこもっていました。班の人たちと仲良くなってとにかく楽しみたい」と話していました。

珠洲市の4年生の男の子は「午前中からいっぱいゲームができて楽しいです。初めて会う人たちと仲良くなりたいです」と話していました。

「国立能登青少年交流の家」の思田雅博さんは「避難生活中の子もいるので、食べたり遊んだりして心身をリフレッシュし、たくさん笑顔になってもらいたい」と話していました。

### ④北日本新聞 WEB

## 宮城出身ボランティア、自分たちの震災経験重ね 寄り添う 立山町で能登の児童らキャンプ

2024年3月23日 08時00分

写真



23日のついでに能登で上げる中野さん（左）と小松さん。



今月、富山県立山町などで行われている能登半島地震の被災児童や生徒向けの宿泊体験活動に、2011年の東日本大震災を経験した宮城県気仙沼市出身の大学生2人がボランティアとして参加した。能登で被災した子どもたちと雪遊びやピザ作りなどを通じて触れ合った2人は「子どもたちの姿が当時の自分たちに重なる。震災の経験を生かすためにも、早く動かないといけないと思った」と話した。

参加したのは中野愛菜さん（20）＝尚学院大2年＝と小松美穂さん（20）＝国学院大2年＝の幼なじみ2人。東日本大震災当時、小学1年生だった。自宅は無事だったが、学校1階の教室が津波で流された。中学時代もグラウンドに仮設住宅がある中で過ごした。「友人の中には家族も家も失った人がいる。ずっと冷たい空気感があったことを覚えている」と振り返る。

「リフレッシュ春キャンプ」と銘打った今回の宿泊体験活動は、能登北部の児童生徒に体験活動を通じて心身をリフレッシュしてもらおうと、能登青少年交流の家（石川県羽咋市）が企画した。立山青少年自然の家（立山町戸新寺）の北見靖道所長が能登の施設所長を兼務している。23～30日の日程で3泊4日ずつ3クールに分け、両施設を会場に実施中だ。中野さんと小松さんは思郷に当たる人が北見所長と交友があり、今回参加した。2人は東日本大震災をきっかけに始まった同様のキャンプに参加したことがある。「震災を経験した自分たちだからこそできることがあるのだと感じた」と話す。

中野さんと小松さんは1クール（23～26日）に携わった。参加した小学1年～中学3年計50人とともに、立山青少年自然の家で雪遊びやピザ作りなどを一緒に楽しんだ。夕べのついでに盛り上げ役も務めた。七尾市の中学1年、水道樹さん（13）は「地震のことは大丈夫。みんな元気だった」と話していた。

中野さんと小松さんは「誰かに寄り添える存在になりたい」「未来を担う子どもたちのまちづくりに貢献したい」と語り、また能登の子どもたちに会いに来ることを望んだ。

⑤NHK 富山ニュース WEB

能登半島地震で被災した子どもたち 立山町でキャンプ楽しむ

03月29日 19時19分



能登半島地震で被災した子どもたちを招いて富山県立山町でキャンプが行われ、子どもたちは雪の感触などを楽しみました。

このキャンプは、春休み中の能登地域の小中学生に新たな気持ちで新年度を迎えてもらおうと3泊4日の行程で行われています。

計50人が参加し3日目の29日は立山町にある「青少年自然の家」で過ごしています。

山あいにある建物の周りには雪が積もったままで、子どもたちは空気で膨らませたチューブに乗って斜面を滑るなどして雪の感触を楽しんでいました。

室内では木をナイフで削ってスプーンなどを作る木工教室も開かれ、子どもたちは手先を集中して取り組んでいました。

石川県七尾市から参加した小学5年生の男の子は「雪がまだあることにびっくりしました。キャンプはみんなと遊べて楽しいです」と話していました。

石川県穴水町の小学3年生の2人組は「穴水にいとまた地震がきて家が壊れるのではないかと不安になることもありますが、ここでは友だちも多いし、安心できます」と話していました。

「立山青少年自然の家」の北見靖道所長は「地震で後ろ向きになった子どもたちの気持ちがこの活動を通じて前向きになることを願っています。笑顔で新年度を迎えてほしいと思います」と話していました。

子どもたちは29日夜、たき火を楽しむなどして30日帰宅するという予定です。

その他、  
石川テレビ(フジテレビ系列)  
「笑顔キャラバン隊」(2月17日)

NHK  
「リフレッシュ 能登キャンプ」  
(3月2～3日)

TBS「報道特集」(2月3日)  
等でも、能登えがおプロジェクト  
リフレッシュ事業が取り上げられました。

(2) 新聞各社

北 陸 中 日 新 聞

2024年(令和6年)2月4日(日曜日) 【能登】 16

●守備練習に励む選手たち＝七尾市南ヶ丘町で ●陸上の練習をする児童生徒たち＝羽咋市の国立能登青少年交流の家で

**志賀ジュニアは 羽咋の施設借り**

志賀ジュニア陸上教室(志賀町)が3日、羽咋市の国立能登青少年交流の家で、今年の練習を始めた。1月6日から練習場だったのが、地震で練習場所の町総合体育館が休館で使えず、1カ月遅れの練習開始となった。メンバーは小学3～6年生25人だが、この日は会場が遠くなったこともあり、部活動が始まっていない卒業生の中学生を含めても7人。リズムに乗っても上げをするなど基礎練習を繰り返した。

志賀小5年神尾武幸君(11)は「早く練習したかった。志賀中2年森田悠生さん(14)は「みんなの顔が見られて嬉しかった。部活動はまだないので体を動かせる場があるのはありがたい」と喜んだ。

森田一監督(48)は「体を動かして心身ともにリフレッシュになれば、少しずつ戻っていきたい」と話した。(松村悠子)

**七尾、志賀の子 リフレッシュキャンプ**

被災地の七尾市や志賀町の小中学生向けリフレッシュ・ティ・キャンプが3日、羽咋市の国立能登青少年交流の家で行われた。初回は小学1～6年生28人が参加。四市町にはまだ断水地域があり、水の不足が課題となっている。また断水地域があり、水の不足が課題となっている。また断水地域があり、水の不足が課題となっている。

楽しみゲームをする児童たち＝羽咋市の国立能登青少年交流の家で

キャンプを楽しむ、洗濯や入浴もして気分転換した。指導員の言う人数を集まったり、指導員の指示には反対に動いたり、体を動かしながらの仲間づくりから始めた。七尾市朝日小6年の藤井親君(12)は「家は断水している。好きなスポーツができるので参加するのは楽しい」と喜んだ。

10、11日は各30人になるまで参加者を募集する。◎交流の家0767(2)3121



羽咋市の国立能登青少年交流の家で21日、日本中国

山梨から羽咋へ  
2回目炊き出し

料理協会山梨県支部による炊き出しが行われ、施設利用者にも肉まんや中華まき、うどんが振る舞われた。写真。齊藤雄太支部長ら4人と協力する滋賀県の3人が訪れた。同支部の炊き出しは1月22日の羽咋市大川町に続いて2回目。無料開放の浴場を利用する被災者や、校舎が被災したため間借りする羽咋高の生徒らが並び、熱々を頬張った。齊藤支部長は「今度は奥能登に行きたい」と話した。

ボールなどを使ったゲームを  
楽しむ児童—七尾市小丸山小



能登青少年交流の家  
七尾・小丸山小で企画  
七尾市小丸山小で21日、国立能登青少年交流の家(羽咋市)による

ボール、バケツ遊び 児童「楽しい」

「笑顔キャラバン隊」が開かれ、2、5年生の約100人がボールやバケツを使ったゲームを楽しんだ。被災した児童を元気づけようと初めて企画された。児童はオリジナルの缶バッチを作ったほか、プラスチック製のパイプをつなぎ合わせてボールを運ぶゲームなどで楽しい時間を過ごした。小丸山小校舎の一部が避難所となっており、避難所に身を寄せる児童もいる。2年の笹谷海郎君(8)は「みんなでゲームができて楽しかった。またやりたい」と笑顔で話した。交流の家は今後、奥能登の小学校でも開催を計画する。



石川北

気仙沼で被災  
早大・伊藤さん

能登の子と自分重ね奮闘

2011年の東日本震災で被災した宮城県気仙沼市出身の早大4年、伊藤夕紀さん(22)が、羽咋市の国立能登青少年交流の家で21日までの10日間、ボランティア活動に助けた。スタッフとして児童向けのさまざまな体験プログラムを案内、制約ある暮らしを送る能登の子と自分をお互いの時間を共有し、一緒に楽しむ。交流の家には、七尾市や志賀町の小学生らとベトナム、ドミニカ共和国の子どもたちも参加していた。伊藤さんは「被災地の子と自分を重ねて、交流の家で活動する中で、七尾市の小丸山小に出向いて

「楽しい思い出くれた今度はその役割を」  
伊藤さんは小学5年で東日本大震災を経験。被災は大きな被害を免れたものの、津波でまちは壊滅状態に。小学校の校舎(仮設住宅)が建てられ、外で思い切り遊んだり、大きな声で笑ったりすることができない日々が続いた。そんなとき、ボランティアの大母バツブ(七尾市)とともに出向くことになった(写真)。伊藤さん(左)は「被災地の子と自分を重ねて、交流の家で活動する中で、七尾市の小丸山小に出向いて

### ダンスやクラフト体験で交流

ダンスリフレッシュ子どもたち  
＝羽咋市の国立能登青少年交流の家



### 奥能登の児童生徒

国立能登青少年交流の家の「リフレッシュ・能登・キャンプ」は2日、羽咋市の同所で1泊2日の日程で始まり、珠洲、輪島市、能登町の小学1年生から中学2年生までの27人がダンスやクラフト体験で交流を深めた。

被災した子どもたちを元気づけようと企画された。児童生徒は音楽に合わせて踊ったほか、缶バッチやコースターを手作りして楽しいひとときを過ごした。珠洲市直小3年の竹平悠人君(9)は「新しい友達もできたので、来て良かった」と笑顔を見せた。

3日はキンボールや写真

立て作りが行われる。普通の生活願う

日常が戻ることを願う宮藤さん(左)と石田さん  
＝羽咋市の国立能登青少年交流の家



◇羽咋市の国立能登青少年

年交流の家▽能登町松波小4年の石田仁葵奈さん(10)と宮藤凜杏さん(9)。明るい気持ちになろうと、羽咋のキャンプに参加しました。ダンスが好きなので楽しく踊ることができました。学校の体育館は避難所になっているので、久しぶりに大きな体育館で体を動かせました。能登町の自宅は数日前に断水が解消し、徐々に元の生活に戻っています。早くみんなが普通の暮らしができるように願っています。

来月2、3日羽咋で小中生にキャンプ 輪島、珠洲、能登町対象  
国立能登青少年交流の家(羽咋市)は3月2、3日、輪島、珠洲市、能登町の小中学生を対象に、1泊2日のリフレッシュ・キャンプを開く。  
3市町には断水地域もあるため入浴や洗濯をする。リズムダンスで体を動かす。夜はプラネタリウムで星座観察をして、被災地生活を忘れて気分転換する。参加費は食事代や保険料も含め無料。能登町能都中と道の駅輪島まで送迎する。  
七尾市、志賀、中能登、穴水町は日帰りで開催。奥能登は遠方のため送迎付きで宿泊にした。申し込みは24日まで、先着50人。交流の家0767(22)3121

その他、朝日新聞、読売新聞、中日新聞等でも、能登えがおプロジェクト リフレッシュ事業が取り上げられました。

